

ただちに国会を解散して、国民の信を問え 応能負担で社会保障の拡充を！

ほっかいどうの社会保障

2012年10月2日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

「おもしろかった」「誰もが人間らしく暮らせる社会を」

北海道社会保障学校in旭川 300名参加



9月30日（日）、北海道社会保障学校in旭川が行われ、地元・旭川をはじめ全道各地から280人以上が参加しました。参加者からは「わかりやすく、勉強になった」「もっと聞きたい」「今後は報道に気をつけたい」「たかひは人のためだけでなく、家族や自分のためになると確信した」「明日からの活動にいかしたい」などの感想が寄せられました。

午前の全体集会では、大橋晃学校長が挨拶、来賓として旭川市の山口泰宏福祉保険部長も挨拶。記念講演は、水島宏明法政大学社会学部教授が「餓死事件そして生活保護バッシング報道にみる日本の貧困」と題して行い、元北電社員の水島能裕さんが特別報告「原発と北海道の冬の電力」を行い、好評でした。午後からは4つの分科会が行われました。

「私たちの中にも『生活保護のバッシング』の感情がないか？ 広げよう権利としての生活保護」

水島宏明さんは、STVや日本テレビで報道ジャーナリストとして貧困問題を取り上げてきました。きっかけが25年前の札幌白石区母親餓死事件。北九州「おにぎり食べたい」事件などの餓死事件も取材。背景には生活保護「適正化」による水際作戦がある。マスコミは、不正受給はとりあげるが（額で0.4%に過ぎないのに）、1000万人以上いる漏給（受ける資格があるのに受けていない）は取り上げない。生活保護は無差別・平等の原則があり、貧困の理由は問わない。扶養家族も「要件」ではない。お笑い芸人の場合も「不正」ではない。しかし、一部マスコミは根拠を示さず「不正受給疑惑」と垂れ流し「恥かしくないですか」と生活保護受給者への偏見・差別を助長した。そこで「報道の裁判所」であるBPOに審議を要請。自民党や民主党（主流）、橋下維新の会も生活保護を改悪しようとしている。



「ネットカフェ難民」の報道後、紹介したヒトミさん（頑張ろうと意欲がある）には「支援したい」と声が寄せられたが、病気で意欲のないヤスジさんは「支援したくない」という人が多かった。私たちの中にも、生活保護のバッシングの感情がないか？と問い、「権利としての生活保護」への理解をいかに広げていくかが課題と強調しました。



「原発がなくても冬も、電気は足りる」

水島能裕さんは、福島原発事故は被害が大きく、亡くなった人も657人以上いると指摘。「北電は今夏も電気が足りないと節電を呼びかけたが、道内2番目に大きい発電機苫東4号機(70万KW)を止めていても、停電はなかった。道内の最大電力は冬場の深夜です。オール電化住宅の蓄電のためです。原発はすぐに止められないので夜も供給するためオール電化を宣伝しました。過去最大電力は578.

8万KW(2011.1.12)。北海道の電力供給力は原発を除いても足りる」

供給力	内訳	万Kw
北電		750
他会社+道外		201
北電(原発)		207
原発除く		744
過去最大電力		578

第1分科会「相談員養成講座」



労働相談（講師：猫塚優氏）と生活相談（講師：細川久美子氏）の二つの講座は、「事例をあげてわかりやすい」と好評した。参加者は47名でした。

第2分科会「自己責任・生活保護を考える」



はじめに、貧困観に関するアンケートを記入。4つのグループに分かれて、活発な討議が行われました。参加者は40名でした。

第3分科会「国保・後期高齢者医療」



「国保料滞納と差押え問題」の講演（講師：佐藤宏和氏）と小松旭川市議の報告、質疑や各地の交流をしました。参加者は50名でした。

第4分科会「障害者福祉」



「障害者制度骨格提言」の講演と障害者自立支援法違憲訴訟元原告補佐人の報告後、障害者福祉について意見交換。参加者は25名でした